

5. 子・親との住まい方及び高齢期における住まい方の意向

(1) 子との現在の住まい方

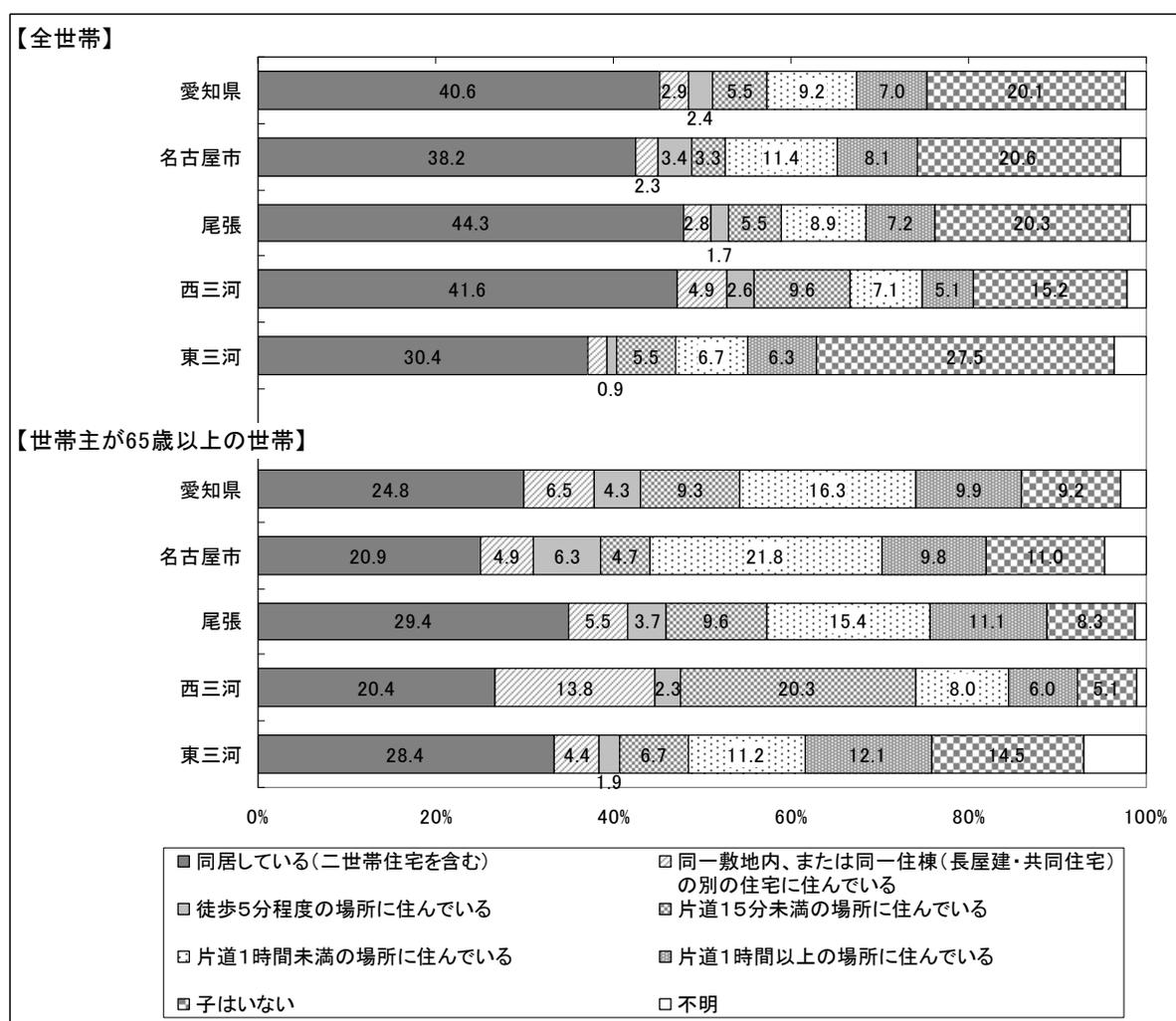
①愛知県、地域別

子との現在の住まい方についてみると、全世帯では「同居している（二世帯住宅を含む）」が最も多いのは尾張で44.3%となっており、次いで西三河（41.6%）となっている。

「世帯主が65歳以上の世帯」では、「同居している（二世帯住宅を含む）」が最も多いのは尾張（29.4%）で、次いで東三河（28.4%）となっている。名古屋市では「片道1時間未満の場所に住んでいる」が21.8%と最も多く、次いで「同居している（二世帯住宅を含む）」（20.9%）となっている。他方、西三河では「片道15分未満の場所に住んでいる」が20.3%と他地域に比べて突出している。

(図-107) (表-55)

図-107 地域別、子との現在の住まい方

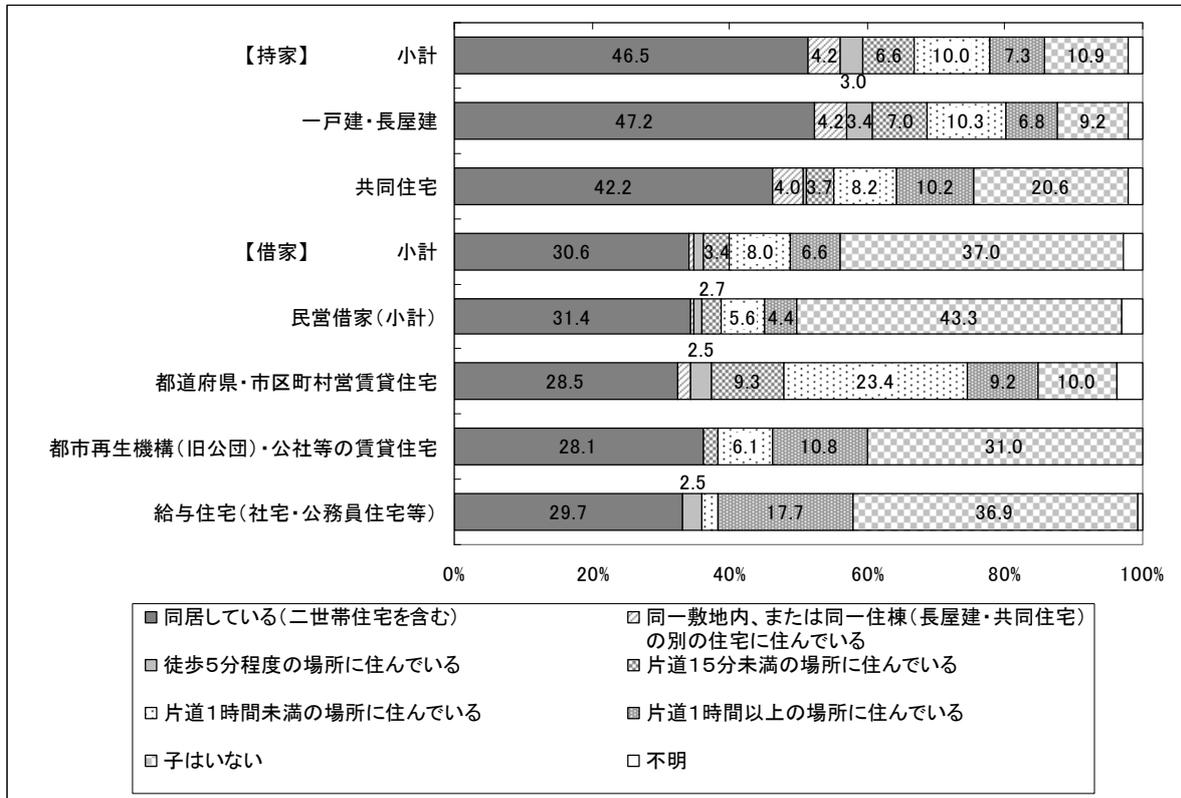


②住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、「持家」の同居率は全世帯で 46.5%となっており、「借家」の同居率 (30.6%) に比べて多くなっている。特に「一戸建・長屋建」では 47.2%が「同居している (二世帯住宅も含む)」と回答している。

(図-108) (表-56)

図-108 住宅タイプ別、子との現在の住まい方



(2) 高齢期における子との住まい方の意向

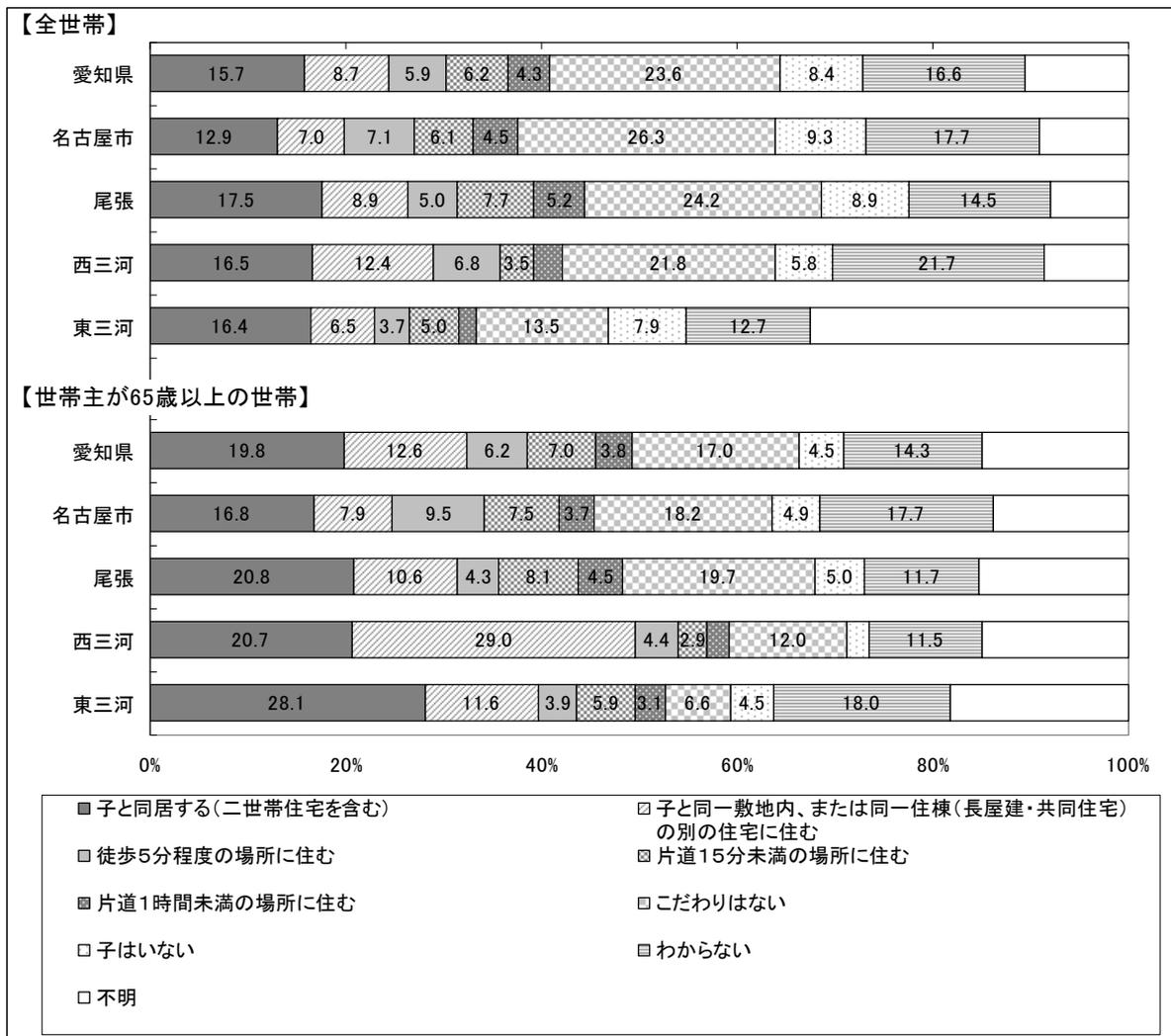
①愛知県、地域別

高齢期における子との住まい方の意向についてみると、全世帯では名古屋市を除く3地域は「子と同居する（二世帯住宅含む）」が17%前後を占めるのに対し、名古屋市では12.9%と少ない。

高齢世帯（世帯主が65歳以上の世帯）では、東三河で「子と同居する（二世帯住宅含む）」が28.1%と多くなっている。西三河では「子と同一敷地内、または同一住棟（長屋建・共同住宅）の別の住宅に住む」が29.0%と最も多く、「子と同居する（二世帯住宅含む）」（20.7%）を上回っている。尾張では「子と同居する（二世帯住宅含む）」（20.8%）と「こだわりはない」（19.7%）が多く、ほぼ同程度となっている。名古屋市では「こだわりはない」が18.2%で最も多くなっている。

(図-109) (表-57)

図-109 地域別、高齢期における子との住まい方に関する意向

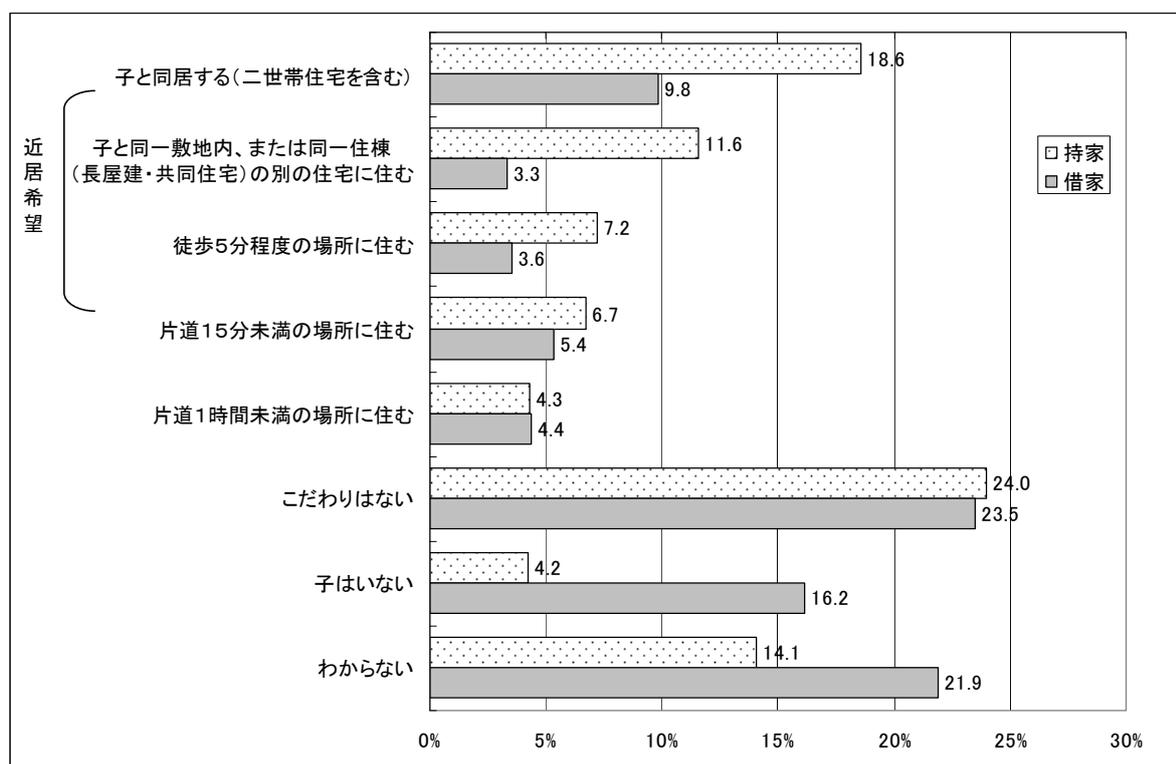


②住宅タイプ別

持・借別にみると、「子と同居する（二世帯住宅含む）」は持家で18.6%と借家（9.8%）に比べて特に多く、「子と同一敷地内、または同一住棟（長屋建・共同住宅）の別の住宅に住む」も同様に、持家（11.6%）が借家（3.3%）に比べて特に多い。「徒歩5分程度の場所に住む」を含めた近居希望は、持家の方が借家よりも多い傾向を示している。

（図-110）（表-58）

図-110 持家・借家別、高齢期における子との住まい方に関する意向

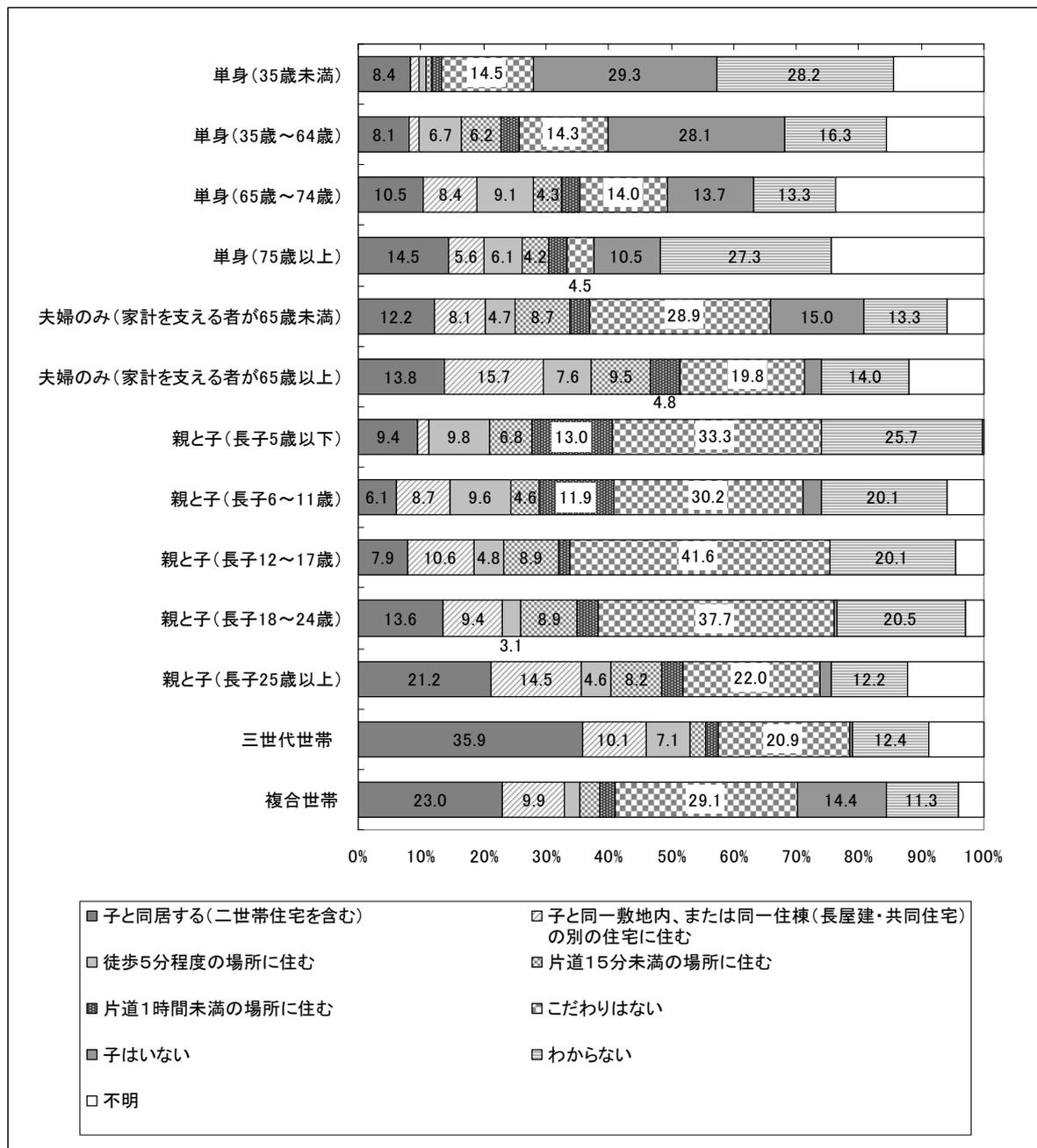


③家族類型別

家族型別にみると、「子と同居する（二世帯住宅を含む）」を希望する割合は、「三世帯世帯」で35.9%と最も多く、次いで「複合世帯」（23.0%）、「親と子（長子25歳以上）」（21.2%）となっている。「子と同一敷地内、または同一住棟（長屋建・共同住宅）の別の住宅に住む」を希望する割合は「夫婦のみ（家計を支える者が65歳以上）」が15.7%と最も高く、次いで「親と子（長子25歳以上）」（14.5%）となっている。これに対し、長子が24歳以下の「親と子」世帯では「こだわりのない」という割合が30%以上と高くなっている。

（図-111）（表-59）

図-111 家族型別、高齢期における子との住まい方に関する意向



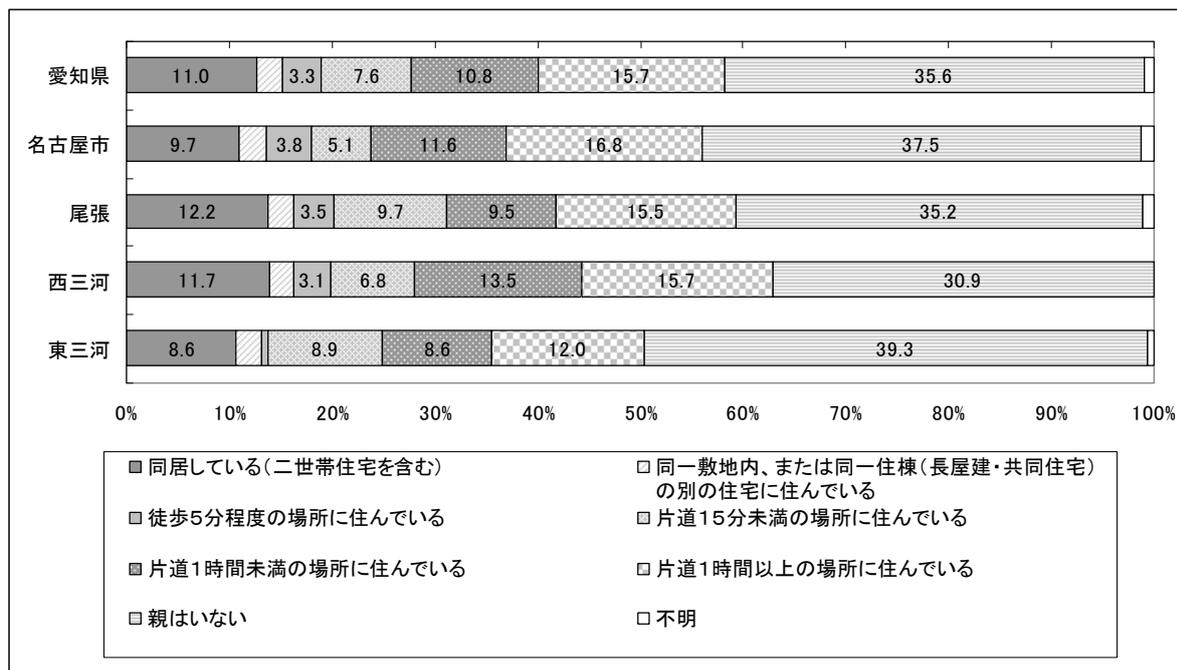
(3) 親との現在の住まい方(新設)

①愛知県、地域別

親との現在の住まい方をみると、いずれの地域も「親はいない」が30%以上を占めて最も多く、次いで「片道1時間以上の場所に住んでいる」が10~15%程度となっている。「同居している(二世帯住宅を含む)」の割合は、尾張で12.2%と最も多く、次いで西三河で11.7%となっており、名古屋市、東三河では10%を下回っている。4地域間の回答傾向の差異をみると、名古屋市では「片道15分未満の場所に住んでいる」割合が5.1%と他の3地域に比べて少なくなっている。

(図-112) (表-60)

図-112 親との現在の住まい方

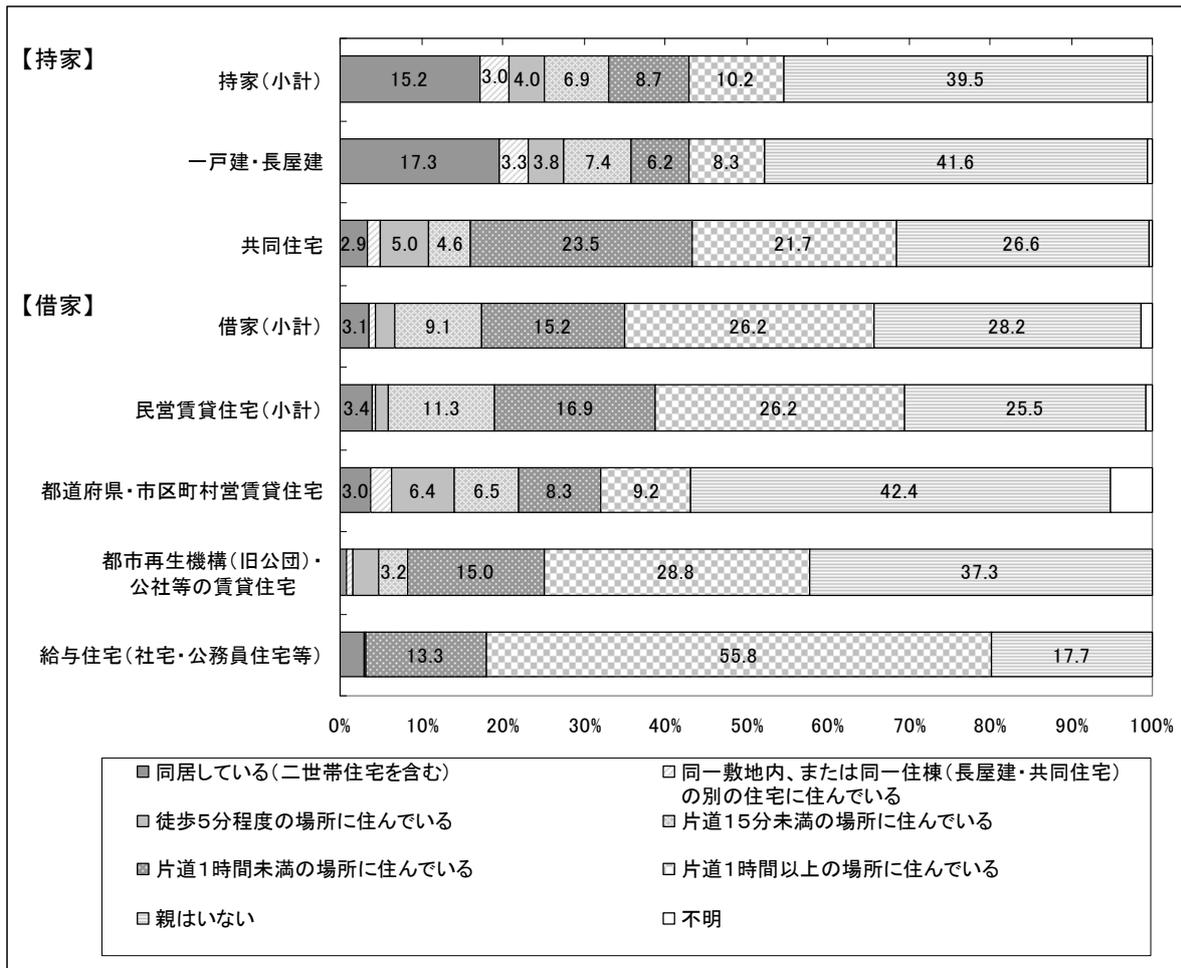


②住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、親と同居している割合は持家の「一戸建・長屋建」で17.3%と他の住宅タイプに比べて高く、持家の「共同住宅」や借家では3%程度と極めて低くなっている。持家「共同住宅」では、「片道1時間未満の場所に住んでいる」が23.5%と他の住宅タイプに比べて高くなっている。他方、「民営賃貸住宅（小計）」では、「片道15分未満の場所に住んでいる」が11.3%と比較的多くなっている。

(図-113) (表-61)

図-113 親との現在の住まい方



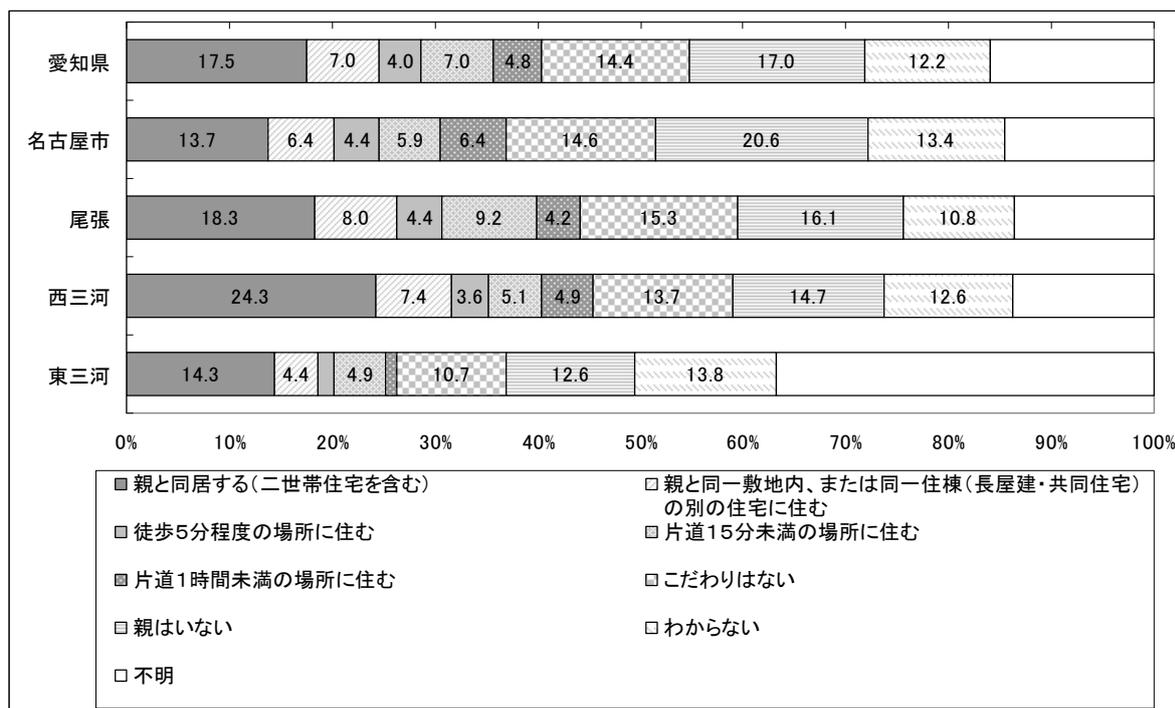
(4) 高齢の親との住まい方の意向(新設)

①愛知県、地域別

高齢の親との住まい方の意向についてみると、西三河では「親と同居する(二世帯住宅を含む)」が24.3%と最も多くなっている。また、尾張では「片道15分未満の場所に住む」が9.2%と他地域に比べてその割合が高くなっている。一方、東三河では、親との同居や親の近くに住むといった意向は全体的に少なくなっている。

(図-114) (表-62)

図-114 高齢の親との住まい方に関する意向(愛知県、地域別)

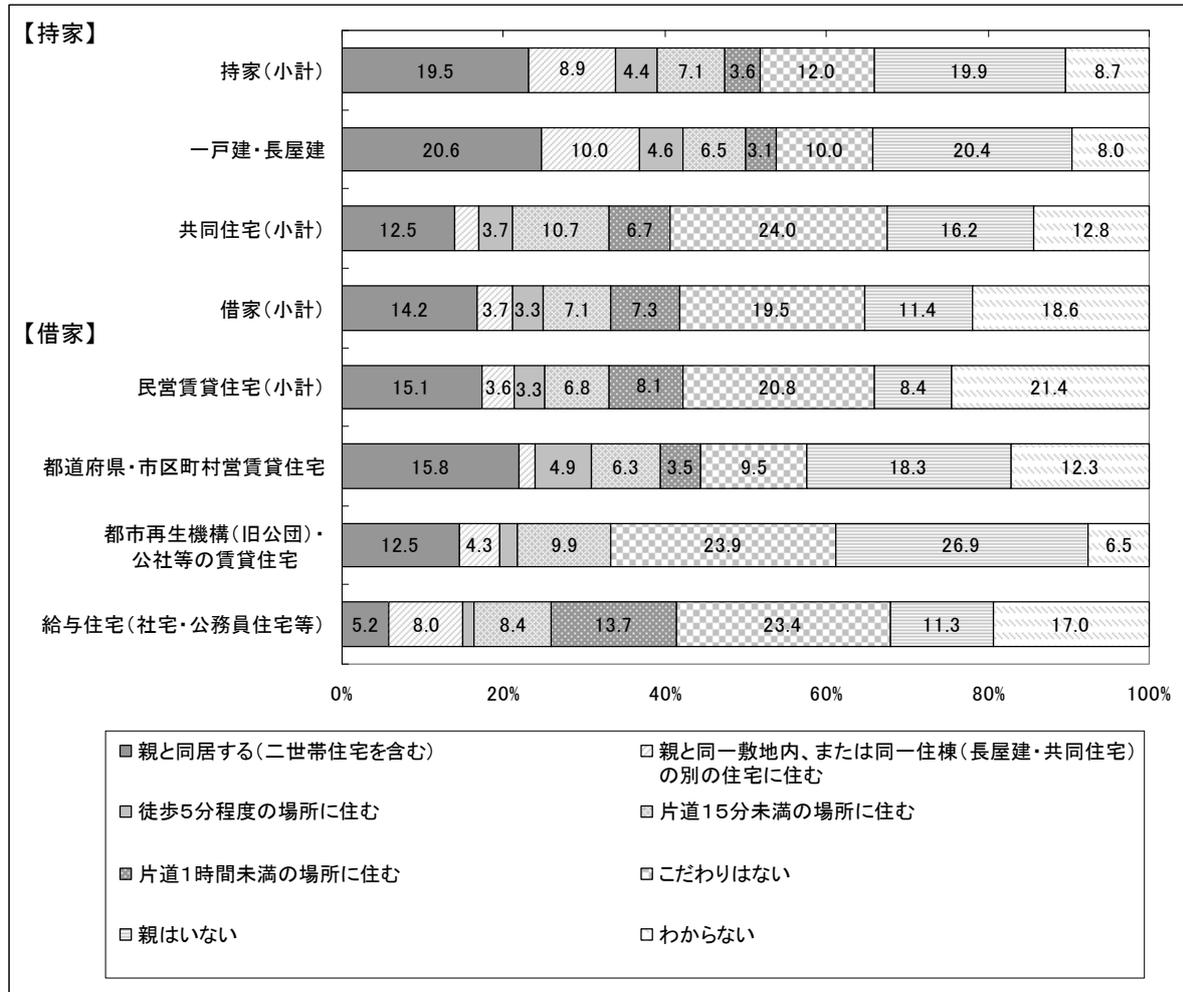


②住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、持家「一戸建・長屋建」では「親と同居する（二世帯住宅を含む）」が20.6%と他の住宅タイプに比べて多くなっている。一方、持家「共同住宅」で「親と同居する（二世帯住宅を含む）」と回答している割合は12.5%と少なく、全体の回答は、「借家（小計）」と似た傾向を示している。

(図-115) (表-63)

図-115 高齢の親との住まい方に関する意向(住宅タイプ別)



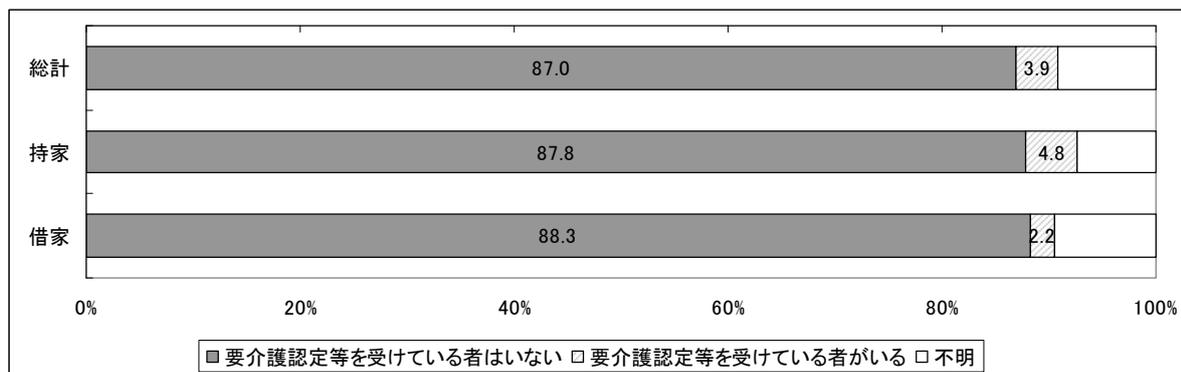
(5) 要介護認定者等の有無(新設)

①住宅タイプ別

要介護認定者等の有無を持・借別にみると、「要介護認定等を受けている者はいない」割合は持家と借家ではほぼ同程度となっているが、「要介護認定等を受けている者がいる」割合では、持家の方が借家よりも多くなっている。

(図-116) (表-64)

図-116 要介護認定を受けている者の有無

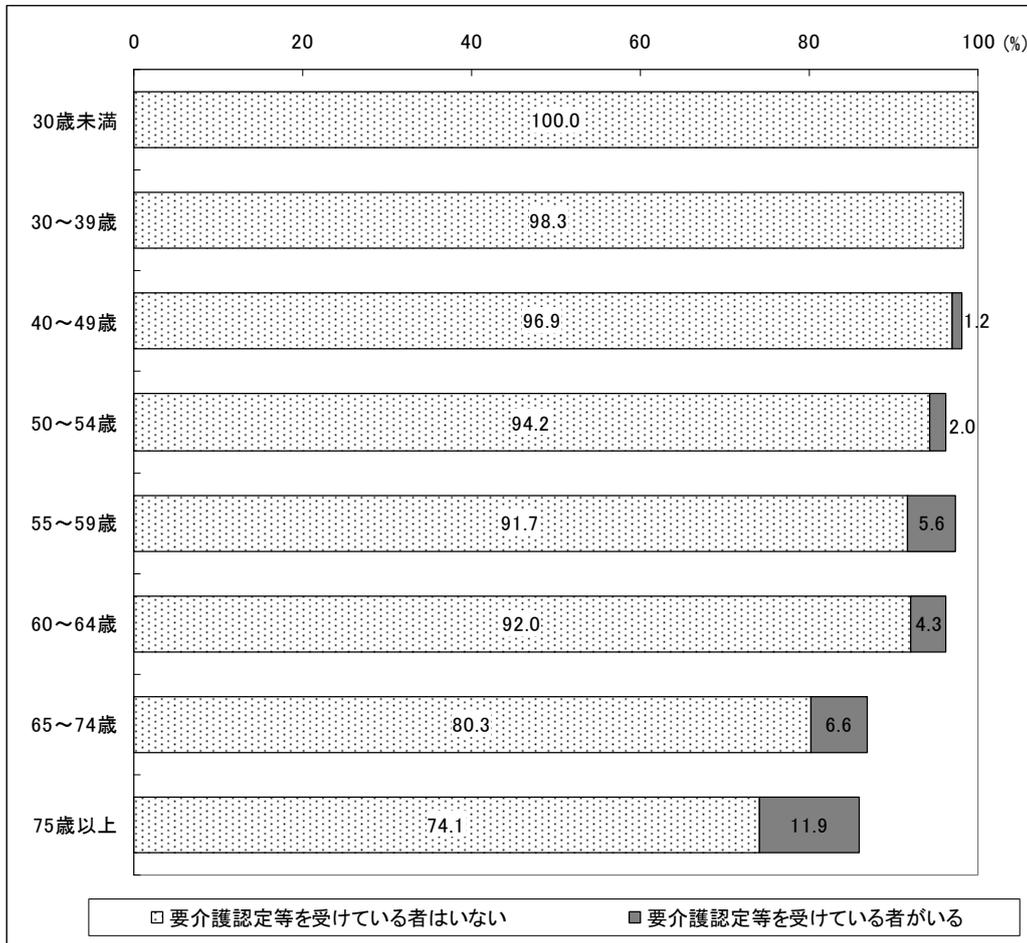


②年齢別

家計を主に支える者の年齢別にみると、年齢が高いほど「要介護認定等を受けている者がいる」割合が高くなっており、「75歳以上」では1割を超えている。

(図-117) (表-65)

図-117 要介護認定を受けている者の有無

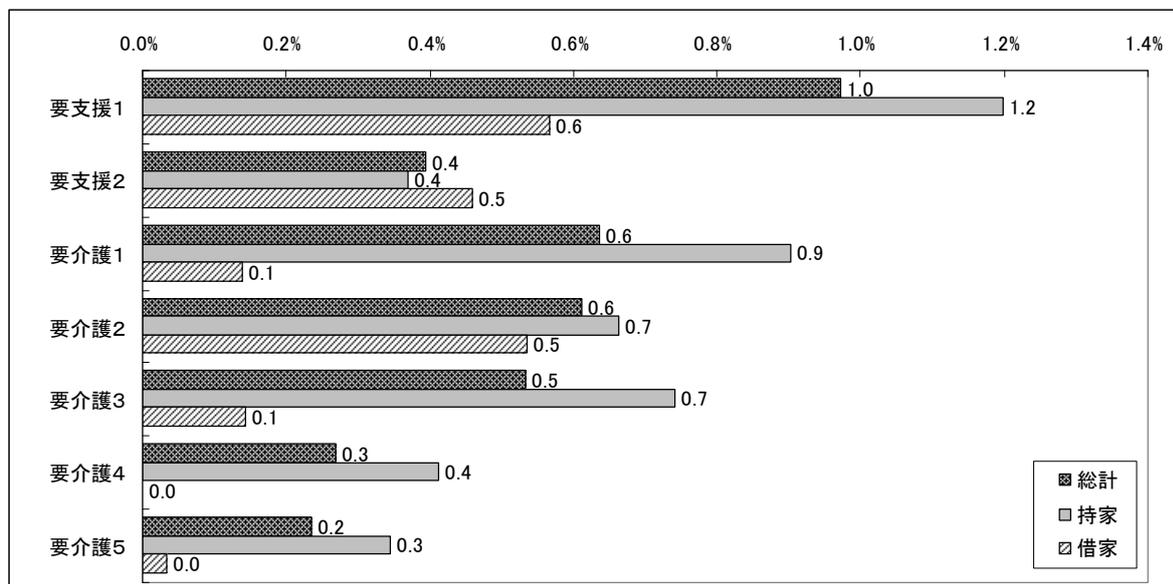


③要介護度別

要介護度別にみると、「要支援 1」では 1.0%、「要支援 2」～「要介護 3」は 0.5%前後、「要介護 4」及び「要介護 5」ではそれぞれ 0.3%、0.2%と要介護度が高いほど割合が低くなっている。持・借別にみると、要介護度が高いほど借家よりも持家に住む割合がやや高くなる傾向にある。

(図-118) (表-64)

図-118 要介護認定等を受けているものの要介護度等



(6) 高齢期の居住形態等の意向

①愛知県、地域別

自身の高齢期の介護や住居費の負担の軽減などのための高齢期における住み替え・改善意向については、いずれの地域も「特に考えていない」が過半数を占めている。4 地域の中では名古屋市において「住宅を購入する、借りる、施設に入るなどして住み替える」が 9.8%と他地域に比べて多くなっている。

高齢期に備えた住み替え後の望ましい居住形態については、西三河では「持家（一戸建）」が 50.9%と最も多く、「持家（共同住宅）」と合わせると、64.4%を占める。これに対し、名古屋市では「持家（一戸建）」と「持家（共同住宅）」を合わせても 20.4%と少なく、「サービス付きの高齢者向け住宅」が 36.7%と他地域に比べて多くなっている。

(図-119) (図-120) (表-66)

図-119 高齢期に備えた住み替え・改善意向

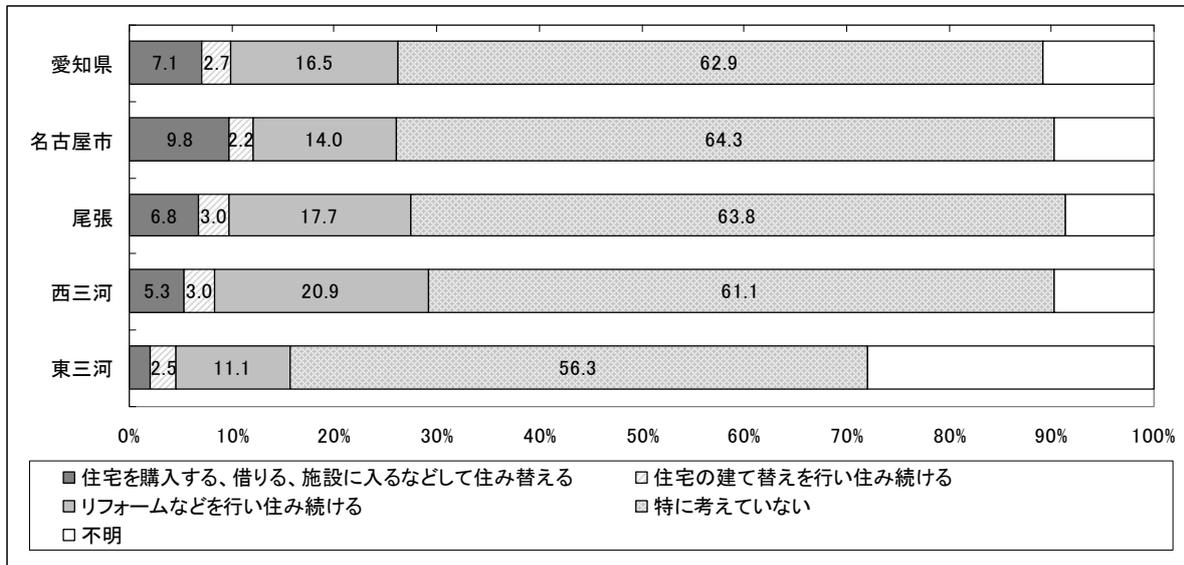
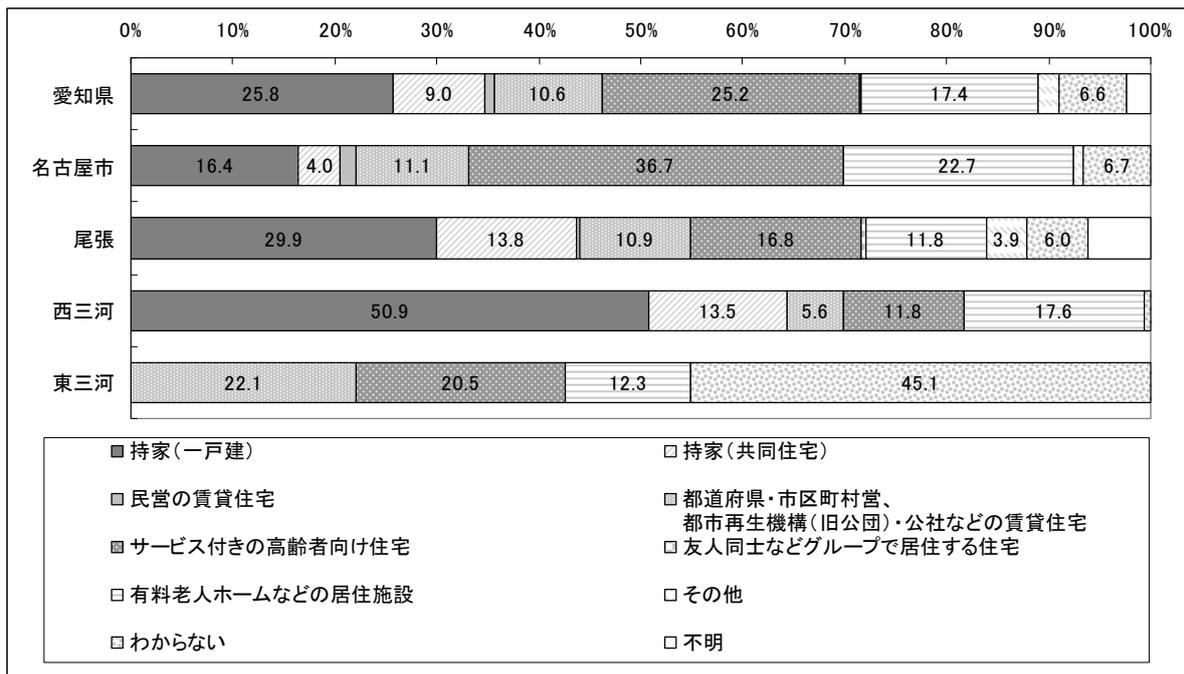


図-120 高齢期に備えた住み替え後の望ましい居住形態



②住宅タイプ別

持・借別にみると、持家では「リフォームなどを行い住み続ける」が22.2%と多くなっている。これに対し、借家では「住宅を購入する、借りる、施設に入るなどして住み替える」が10.6%と持家の5.4%に比べて高くなっている。

住み替えた後の望ましい居住形態についてみると、「持家（一戸建）」とする割合は持家、借家問わず25%程度みられる。「持家（共同住宅）」とする割合は借家では13.5%あるのに対し、持家では4.7%と少ない。一方、持家では「有料老人ホームなどの居住施設」が22.3%と借家の12.5%に比べ多くなっている。

(図-121) (図-122) (表-67)

図-121 住宅タイプ別、高齢期に備えた住み替え・改善意向

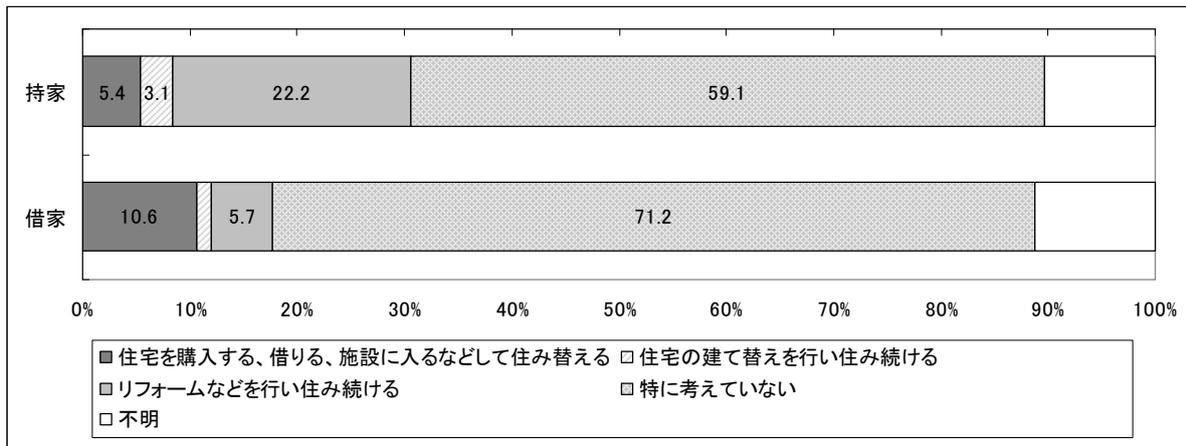
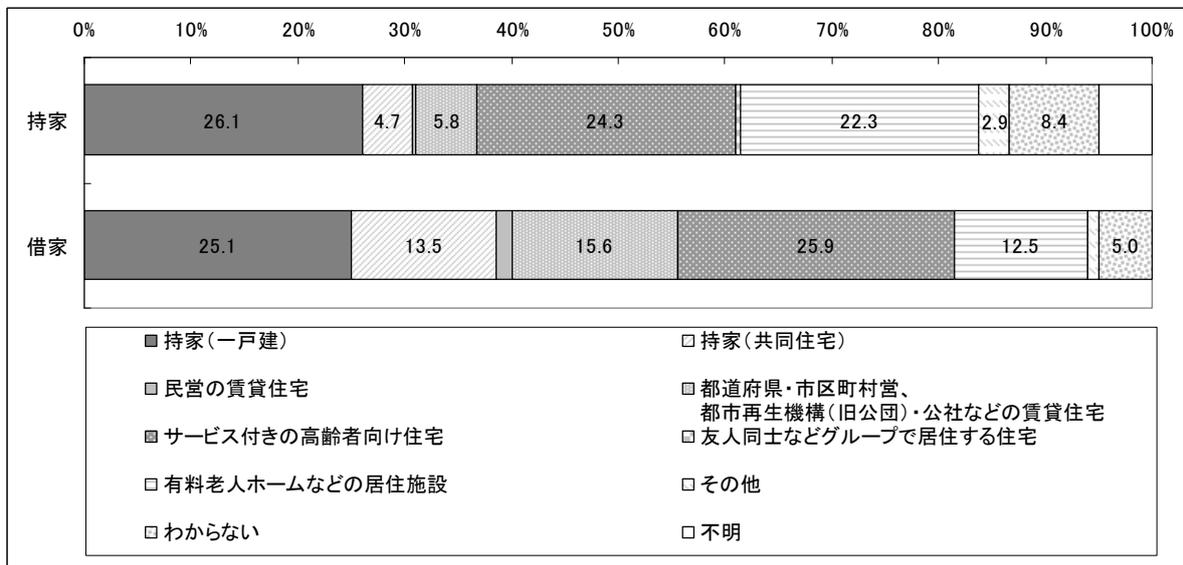


図-122 住宅タイプ別、高齢期に備えた住み替え後の望ましい居住形態

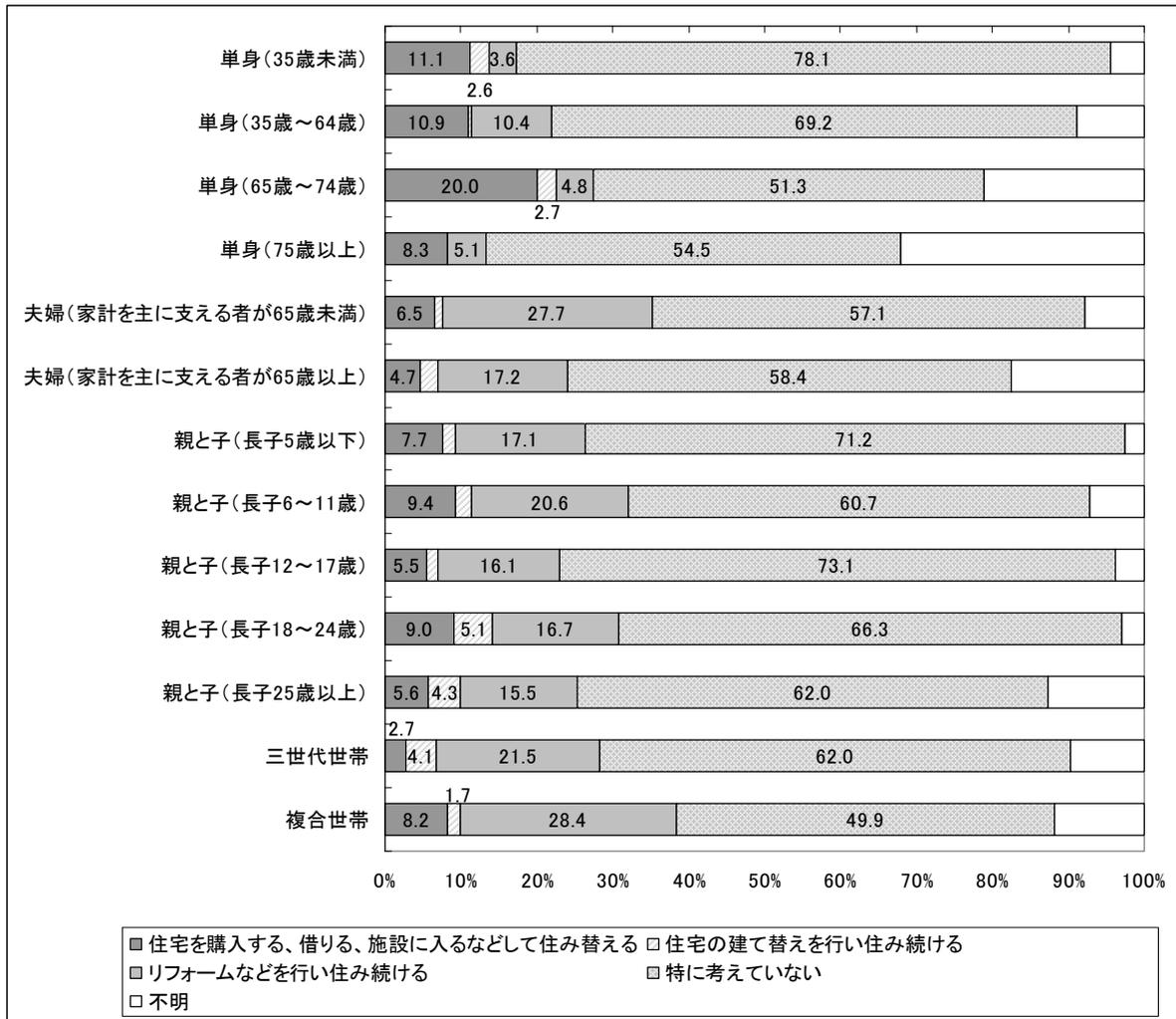


③家族型別

家族型別にみると、「単身（65～74歳）」では「住宅を購入する、借りる、施設に入るなどして住み替える」が20.0%と高くなっている。一方、「複合世帯」や「夫婦（家計を主に支える者が65歳未満）」では「リフォームなどを行い住み続ける」が28%前後を占めており、「三世代世帯」や「親と子（長子6～11歳）」においてもそれぞれ21.5%、20.6%となっている。

(図-123) (表-68)

図-123 家族型別、高齢期に備えた住み替え・改善意向



家族型別にみると、住み替え後の望ましい居住形態についてみると、「複合世帯」では「持家（一戸建）」が81.8%と極めて高い。同様に「単身世帯（75歳以上）」、「親と子（長子5歳以下）」、「親と子（長子12～17歳）」においても、それぞれ71.4%、68.5%、60.7%が「持家（一戸建）」と回答している。

一方、「単身（35歳未満）」では「サービス付きの高齢者向け住宅」が60.7%と多く、「単身（65歳～74歳）」や「親と子（長子6～11歳）」でもそれぞれ4割程度を占めている。

他方、「親と子（長子18～24歳）」や「親と子（長子25歳以上）」、「単身（65歳～74歳）」では、「有料老人ホームなどの居住施設」がそれぞれ38.2%、30.8%、28.1%と相対的に多くなっている。

(図-124) (表-68)

図-124 家族型別、高齢期に備えた住み替え後の望ましい居住形態

